

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

通信教育部での学習を 振り返ってみて

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 小黒 亮輔

はじめに

私は、今年の3月に社会福祉士の国家試験に合格し、7年間かけて学んだ通信教育部を卒業しました。

私が東北福祉大学の通信教育部で学ぼうと思ったきっかけは、自分自身が交通事故の後遺症で障がい者となったことでした。受傷後は、今までの生活から一変した自分の生活に戸惑い、様々な悩みや不安のなかで日々を過ごしていました。しかし、そんな生活の中でも「なったことは仕方ない」と、徐々に気持ちの整理がついてくると、将来に向けて何か始めてみようと思えるようになり、そこで何をしようかと考えるなかで「福祉を学び、社会福祉士の資格を取得し障害者福祉の相談職を目指すことで、自分自身の障がいを個性として活かせるのではないか」と思い、東北福祉大学の通信教育部で学び始めました。

スクーリング・レポート作成等の学習

スクーリングを初めて受講したのは、初年度の夏に3科目を8日間続けて受講した時だったと思います。受傷後は家にいることが多かったため、突然たくさんの人の中に入って講義を受けた際には、どうしていいかわからず時間があっという間に過ぎてしまったことを覚えています。しかし、その後もスクーリングの受講を続け、徐々に雰囲気慣れてくると、スクーリングは楽しみになっていきました。レポートの作成も講義を聞いて重要なポイントを理解したうえで書く方が書きやすいと思います。また先

生方の講義は勿論ですが、グループワークなどで他の受講生の方たちとの会話の中から学ぶこともとても多かったです。

レポートの作成は、とにかく色々な本を読んでみました。参考図書として課題に記載されていなくても、とても分かりやすく解説が載っている本もありますし、色々な参考書を読むことで課題に対して理解しやすくなると思います。レポートの作成は、書き始めるまでが億劫なので、とりあえず書き始めてみるというのも大切だと思います。

実 習

実習は、隣の市の社会福祉協議会で実習をさせていただきました。大きな事業型社協で、社会福祉協議会事務局・障がい者相談支援センター・身体障がい者デイサービス・就労継続支援B型事業所・特別養護老人ホームなど、様々な福祉の現場を経験させていただきました。また、将来は障がい者の相談支援に携わりたいという自分の意向も汲んでくださり、障がい者の相談支援を多くプログラムに組んでいただきました。自分が車椅子を使用しているということから、施設間の移動の際には車椅子のまま乗り込める福祉車両や段差解消のための持ち運びできるスロープを用意していただくなど、様々な配慮をしていただいたおかげで、中身の濃い実習ができたと思います。

また、地域福祉や障がい者福祉の現場でのアウトリーチの重要性を強く感じ、車いすを使用しているため自由な移動が制限される自分がどのようにアウトリーチなどのハンディキャップをカバーしていくかという課題も再確認できました。

今までは大学でのスクーリング時の講義や教科書・参考図書を使用していた学習での福祉に関する知識しかなく、実際の福祉の現場を体験したことがありませんでした。実際の福祉の現場を体験したことで、地域が抱えて

いる課題・地域の人達による自分たちの地域のための取り組み・様々な課題を抱えた人達や共に解決に向けて努力しようとする職員の方々・自分たちの長所を活かし活動する障がいを抱えた人達など、非常に多くの人たちと出会い学ぶことができ、講義や図書での勉強では伝わらなかったこと・見えて来なかったことが感じられ、モノクロだった頭の中の知識が色付けされてカラーになった感じがしてとてもいい経験ができたと思います。

国家試験

国家試験対策の勉強を集中して始めたのは、実習終了後からになってしまったので11月になってからでした。とにかく過去問を解き、間違えた問題と当たっていても自信がなかった問題を後から確認し直すということを繰り返しました。試験まで2週間を切ったからは、模擬問題のスマートフォンのアプリをダウンロードして取り組みました。国家試験の出題基準どおり150問セットになって一問ずつ答え合わせや解説があり、150問解答し終わると全体と項目別の正解率が出るので自分の苦手な項目がわかりやすいと思います。また、スマートフォンを使用することで、ちょっとした時間も試験勉強に使いやすくなると思います。

試験当日は、ひと通り解答した後、もう一度よく見直すことが重要だと思います。2つ選択しなければいけない問題を見落としたという人の話もよく聞きましたし、自分自身も見直すまで気づかなかった問題がありました。

さいごに

自分の障がいを個性として活かしたいと思い東北福祉大学の通信教育部で勉強を始めましたが、福祉の範囲はとても広くなかなか思うように勉強

が進まず挫折しそうになったこともありました。しかし実習の際、身障デイサービスの利用者の方にアセスメントを行ったうえで課題を整理し発表した後に、利用者の方から「同じ障がい者だから素直に話せたこともある。健常者相手では、どんな経験を積んだプロ相手でもこういう素直な気持ちでは話せなかっただろう。」とっていただいたことが今後の大きな励みになりました。

これからは、大学で学んだことを活かし、自分のハンディキャップを如何にカバーして、障がいを持っているという強みを伸ばしていくかを考え、そして将来地域の中で課題を抱えている人の力になれるようにさらに勉強していきたいと思っています。

最後になりますが、先生方や職員の方々にご支援ご配慮いただいたおかげで無事卒業することが出来ました。本当にありがとうございました。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

●社会福祉原論

- ・「言葉のもつ意味」をしっかりと考え、その意味を知って使うことが大切だということを学んだ。自宅でのレポート作成は時間に追われ早く書き上げることを主にしてしたが、立ち止まって考えることも必要で言葉のもつ意味を理解する、感じるために自分は学ぶのだと分かった。これはこのスクーリングに参加したからこそこの学びだったと思う。
- ・相手を理解するためには相手よりも下に立つ、学問はものの見方・考え方・生き方を決定する力となる。
- ・目からウロコ…と思うことが盛り沢山でした。社会福祉に援助（ヘルプ）と支援（サポート）の両方が必要ということが実感をもって理解できたように思いますし、理解するとは「下に立つ」ということのくだりには、思わずうなっていました。さまざまな言葉を胸に刻んで学んでいきたいと思いません。

●社会福祉援助技術論A、B

- ・これまで援助はクライアントの自立を助けることだと考えていたが、クライアントの自助を助けるとの解釈は大変心に残った。“気持ちの預金”“常にそこにいること”など、先生の言葉一生忘れずにいます。
- ・講義の中で先生からいくつかの問いかけがありました。そのひとつひとつの問いを解き、一人称で話せる自分らしいソーシャルワーカーを目指したいと思います。当事者が抱える問題はソーシャルワーカーがすべてを解決するのではなく、ともに考えることで相互に作用しながら当事者が自覚して本当の変化をもたらし、問題の解決につながるということを学びました。
- ・ソーシャルワーカー・アイデンティティの構築についてのお話を聞いて自分が他ならぬ自分であることを恐れずに自分なりのソーシャルワークをやればよいと肯定してもらえたような気持ちになりました。自己覚知をし、当事者と共に悩み生きる1人の人間として、専門性を柔軟に武器として活用できるワーカーになりたいと思いました。